

□最近の活動状況

【第24回朝食懇談会】

— 5月28日(火)ザ・セレクトン福島 —

講師 南相馬市立総合病院 地域医療研究センター長
福島県立医科大学 特任教授 坪倉 正治 氏テーマ 東日本大震災・原発事故による被災地を
守り、復興を後押ししていくために

参加会員数 50名

○原発事故に伴う健康影響について

津波、地震により直接亡くなった方を除いて、8年間で最も人の命が奪われた時期は最初の3か月間の避難に伴うものです。ほとんどの方が老人ホームに入所していた方で、原因となった病名は肺炎でした。

「原発事故＝健康被害」が多くなった要因として、初期の避難に伴うもの、例えばストレスや生活習慣病や糖尿病の増加など、家族環境の変化、社会的な変化、周辺の医療等の提供状況の変化、情報偏見によるものなどがあります。

糖尿病は、年率約1%増加し最初の5年間で約5%増えました。糖尿病に罹るとすい臓がんや肝臓がんになる確率が約2倍、大腸がんや乳がんは約1.6倍になると言われていますので、全人口の5%が糖尿病になると、がん人口は更に増えてしまいます。また、南相馬市の乳がん患者において娘さんと同居していない場合、症状が進行してから病院を受診する傾向にあります。これは家族環境が変わったことによる影響と考えられます。

人間はチェンジに弱いです。被災者の方は「避難所→仮設住宅→災害公営住宅」へと移動したことで何度もチェンジを経験し、そのたびにコミュニティの崩壊を繰り返しました。このことへの対応が今求められており、マンパワーを注ぐ部分だと感じています。

高齢化、過疎化、少子化、孤立、ソーシャルネットワークの減少、地域コミュニティの消失、生きがい・やりがい・社会での居場所の喪失など様々なキーワードがあります。これらの「問題」や「課題」そして「できること」の区分を明確にし、どれを解決するか議論する場が必要だと思います。

右 講師 坪倉正治 氏
下 講演会場風景

○風評被害のリスクコミュニケーション

南相馬市で野菜や果物をどのように調達しているかを調べたところ「福島県産を避ける」と答えた割合が約75%から5年間で約28%まで減少しており、徐々に地元産を使用する傾向に変化しています。しかし、調査開始当初から、地元食品回避傾向が高い人は今もなお避け続けており、この人たちに向けて同じような情報発信を続けても効果は薄いと考えられます。なぜなら、風評被害の問題の質が変化してきているからです。販路がほかの産地に変わってしまった「棚」の問題や、相手がどう思うかわからないという問題などがあります。これからは、正しい情報を伝え理解を深めていくことや、福島県産の流通構造が変化したことへの取り組みが必要だと思います。

○地域の医療、福島医療

社会的な問題として健康にとって深刻なことは、震災によって人と人のつながりが消失し地域コミュニティが壊れ、見守ることができなくなったことです。その結果、南相馬市の介護費用は震災前の1.3倍に上昇してしまいました。地域の医療を守っていくためには、どういう医療が必要か、少ないマンパワーの中でできることは何か、もっと議論していかなければならないと思っています。

地域医療において医師や看護師不足が問題となっています。この問題を解決するためには「医療者が少ない、高齢者が多い、田舎、災害、偏見がある」ではなく、「若者がイニシアチブを取れる、症例数が多い、人のつながりが強い、研究につながる、発信を続けられる」というように「発想の転換」が必要だと思います。

これからも原発事故の影響に関して医学的にデータを収集し研究発表を続けて参りますので、ご支援いただければと思います。(文責：事務局)

【2019年度通常総会】

— 6月28日(金) ホテル辰巳屋 —

2019年度通常総会が福島市の「ホテル辰巳屋」にて行われ、2018年度の事業報告、決算報告に続き今年度の事業計画と予算について議案を審議し、いずれも原案通り可決しました。

○生活環境・生活様式が変化したことによる子どもたちへの影響

2011年3月に発生した東日本大震災以降、子どもたちの育つ環境は大きく変化してしまいました。震災で福島の子どもたちが失ったものは何か？それは「日常生活」「遊び場」「健康に対する概念」です。それによって福島の子どもたちは、体力・運動能力の低下がすすみ、肥満のお子さんが増加していきました。

現代の日本は、効率化・自動化・情報化により、非常に便利な生活を手に入れました。一方で、私たち日本の将来を担う子どもたちのライフスタイルは失われてきたのではないのでしょうか？現在の子どもたちの多くは、家の中でゲームに夢中になっています。また、朝食をとらずに登校し、家ではいつも決まった食事を一人で食べている子どもも存在します。一方、家族との対話が少なくなり、インターネットやEメール、ゲームでコミュニケーションを図ることが多くなりました。結果として、生活リズムが夜型になり、いつも寝不足の子どもも少なくありません。育ちのなかで、楽しく体を動かすことがなく、食や睡眠にも問題を抱えながら育っている今日の子どもたちは、健やかに育つことができず、元気な大人になることがままならない可能性があります。

○子どもたちにとって重要な遊び

子どもにとって遊びは、生活の主体であるとともに、人間が生涯を通して獲得していく「体や運動の発達」「認知的能力」「情緒や社会性の能力」を学ぶ絶好の場であると考えられます。

子どもたちが面白く夢中で遊ぶためには、時間・空間・仲間という「3つの間」が必要です。しかし近年、外遊び時間が激減し、遊ぶ場所は屋外から室内へ変わり、遊びの集団も縮小してきています。このように大きく変化しています。私たちが子どもの頃は、まだこ

総会終了後、引き続き同会場において菊池信太郎・認定NPO法人郡山ペップ子育てネットワーク理事長を講師にお招きし「福島の子どもたちを日本一元気に！」と題し講演会を開催しました。

その後、会員懇親会を開き、初参加者とともに和やかな雰囲気の中親睦を深めることができました。以下、菊池理事長の講演録を掲載しました。



講師 菊池信太郎氏

の「3つの間」が十分にそろっていません。今はどれも激減しているのが現状で、これは日本全国共通の問題です。

今、子どもたちに最も必要なことは、体を沢山動かして遊ぶことで

す。特に3歳頃から小学校前半までの期間は、脳の発達に伴って、体を動かす能力を獲得する重要な時間です。この時期に、いかに数多くの動きを経験し、体を使ったかが、その後の運動能力を左右すると言っても過言ではありません。さらに、子ども時代の運動習慣や運動経験は、大人になっても持ち越され、将来の健康な体を維持するための基礎となります。

○福島の子どもたちのこれから

子どもたちが育つために必要な刺激や経験を与えることができ、地域の大人たちが子どもの発育発達をしっかりと見守る体制を急いで創らなくてはなりません。そのためには子どもの目線に立ち、子どもを中心に考えることが必要です。30年前の日本の子どもたちが持っていた良き生活習慣を取り戻し、そして新しい時代に適応した生活習慣を新たに組み入れる、まさに子どもたちの成育環境のルネサンス(再生と復興)が必要です。

震災を経験した福島だからこそ気付くことができた子どもたちを健やかに育むための環境整備の重要性は、おそらく次の時代の日本の子どもたちの生きる環境を創造する上での大きなヒントになり得ると確信しています。

福島の子どもたちを日本一元気にするために、ふるさとの未来を担う子どもたちを大切に育み健やかに生きられる地域を創ることが、将来、本当の意味で福島の復興につながると思います。(文責：事務局)

【定期講演会】

— 9月11日(水)ザ・セレクトン福島 —
 講師 外交ジャーナリスト・作家 手嶋 龍一 氏
 テーマ 米中衝突の時代をどう生き抜くか
 ～中国の台頭と日本の針路～

(一財)とうほう地域総合研究所、(公財)福島県産業振興センターとの共催、(株)東邦銀行の協賛、福島民報社と福島民友新聞社の後援による定期講演会を開催し、会員の方々をはじめ約300名の方が聴講しました。



講師 手嶋龍一 氏

□今後の予定

【第26回朝食懇談会】

日時：2019年11月1日(金)
 会場：ザ・セレクトン福島
 講師：大野農園株式会社 代表取締役 大野 栄峰 氏

【新年懇談会】(詳細決まり次第ご案内申し上げます)

日時：2020年1月30日(木)
 会場：ザ・セレクトン福島
 講師：薬師寺 大谷 徹英 氏

□事務局だより

○2019年6月から9月に入会・変更のありました会員を紹介します。(敬称略)

新規入会		2019年7月入会 わたなべ けんじ 渡辺 健寿 渡辺健寿法律事務所 代表弁護士		
		2019年7月交代 くげ ふみとし 久家 文寿 福島商事(株) 代表取締役社長		
会員交代		2019年7月交代 よこやま あつし 横山 淳 福島テレビ(株) 代表取締役社長		2019年7月交代 ふくたに ひろすけ 福谷 宏介 福島製鋼(株) 代表取締役社長
		2019年7月交代 よこやま あつし 横山 淳 福島テレビ(株) 代表取締役社長		2019年7月交代 くらしき まさひろ 蔵敷 大浩 福島トヨタ自動車(株) 代表取締役社長
		2019年8月交代 やしろ だいすけ 八代 大輔 野村証券(株)福島支店 支店長		2019年9月交代 かじた あきまさ 梶田 明正 日東紡績(株) グラスファイバー事業部門生産・ 技術本部副部長兼福島工場長

引き続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。(2019年9月13日現在 会員数101名)

編集日誌

◇先日「手ぶらでキャンプ」に行ってきました。「肉に炭火に酒と自然」を味わってしまったら最後、即テントを購入し翌週もキャンプへ。ゆったりと流れる時間の中で、耳をすませば日ごろ聞こえない自然の音に包まれリラックスできる…週末の新しい過ごし方を見つけました。(今野)

□会員企業紹介 【第24回 陽日の郷あづま館】

今回は日本百名山「安達太良山」の中腹にある二本松市岳温泉「陽日の郷あづま館」の鈴木美砂子女将にインタビューしました。岳温泉の歴史や、近年進む旅行の個人化や多様化する宿泊者ニーズへの対応など様々なお話を伺うことができました。

○創業の経緯

昭和9年4月に扇屋分館として独立開業しました。以来、地域と共生する企業となるべく、標高600mの高原にある温泉地として自然環境を守り育てると共に、誇りある地域づくりを推進し、日本型リゾートの実現を目指して参りました。震災を契機にサービスを一新し、多様化するお客様のニーズにお応えできるよう選択の幅を広げております。



鈴木美砂子女将

に、誇りある地域づくりを推進し、日本型リゾートの実現を目指して参りました。震災を契機にサービスを一新し、多様化するお客様のニーズにお応えできるよう選択の幅を広げております。

○社名の由来

元の岳温泉は陽日温泉と呼ばれており、創業者が東天に昇りゆく太陽をイメージして「東館」と名付けた原点を踏まえ、将来に向かって拡大発展していく決意を込めて「陽日の郷あづま館」としました。

○全国でも珍しい「酸性泉」

岳温泉は自然涌出の温泉で、坂上田村麻呂が東征の折に発見したと言い伝えられています。湯元は安達太良連峰の鉄山直下の標高1,500mにあり、そこから8kmの距離を引き湯しており約40分かけて温泉街まで流れてきます。その間に適度に採まれ、肌にやさしい柔らかなお湯となります。また、全国でも珍しい酸性泉でPHは2.48です。江戸時代後期の「諸国温泉効能番付表」で岳温泉は東北トップの前頭二枚目に位置づけられるほど全国に知られた温泉でした。

○自主性を持つ人材育成

顧客満足を最優先に考えているザ・リッツ・カールトンやオリエンタルランドの行動規準を参考にクレドカードを作成しています。経営陣はもちろん、社員全員がそのカードを常時携帯しています。当社の理念を心に刻み、行動指標を明確にすることで、自ら考え、判断し、行動できるようになり、ひいてはお客様のニーズに迅速な対応へとつながると考えています。

○業務の効率化

旅館業の業務には忙しい時間とそうでない時間が

あり、また忙しい時間帯や忙しさの度合いが部署ごとに違います。1人が1つの部署に専任化していればいるほど、ピーク時に多くの人員が必要になりますが、他の部署の仕事もできるようにしておけば、ピーク時の必要人員を抑えることができます。このような観点から業務のマルチタスク化に取り組んでおり、業務の効率化や、社員の職務能力の幅を広げ、多様な働き方を可能にしています。

○新たな顧客獲得のために

ドリフトの聖地として世界的に有名な二本松市のエビスサーキットを始め、福島県内にも魅力的な観光資源はたくさんあります。来年には東京オリンピックを控えており、インバウンドの更なる増加が予想されます。長期的な観点においてもインバウンドは重要となりますので受け入れる環境を整備していきたいと考えています。

○顧客満足度100%を目指して

今年4月に創業85周年を迎えました。これもひとえに皆様のご支援・ご愛顧の賜物と心から感謝しております。これからも、お客様に『来て良かった』『もっと滞在したい』『また来るよ』と仰っていただけるよう、素敵でさわやかな時間と空間を提供して参りたいと思います。



住 所 〒964-0074 二本松市岳温泉1-5
 設 立 昭和9年4月
 従業員数 80名
 T E L 0243-24-2211
 U R L <http://www.azumakan.com>